

## 「かわとはきもの」第200号発行にあたって

東京都立皮革技術センター台東支所長 木 幡 収 治

「かわとはきもの」が第200号を迎えることとなりました。

また、本年は、当所の前身である東京都産業労働会館で靴に関する試験相談業務を開始してから50年目に当たります。

本誌第1号は昭和47年（1972年）11月、「かわとはきもの—東京都産業労働会館ニュース—」として、単色B5版簡易印刷で発刊されました。その後、第100号の発行を契機にカラー印刷の頁を増やし、現在に至っています。「かわとはきもの」は、公的機関としては唯一の靴・はきもの関連を中心とした、技術、ファッション、海外情報等を掲載した専門誌として、年4回、皮革・靴はきもの関連産業の振興に資することを目的として発行してまいりました。

第200号の発行にあたり、改めて、本誌が靴・はきもの関連を中心とした関係業界及び多くの関係者の方々のご協力・ご支援を得て継続されてきたことを痛感しております。

とりわけ、これまでご執筆・ご協力をいただいた多くの方々と長くご愛読いただいている読者の皆様方には心より感謝申し上げます。創刊以来、本誌の発行に関わってきた職員も何代にもわたっております。多くの方々の熱意と努力によって本誌が支えられ、発行を続けることができたことに改めて御礼を申し上げます。

当所といたしましても、本号の発行を一つの節目として、これからもよりの確かつ充実した情報の提供に努めてまいり所存でございます。今後とも忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

## 「かわとはきもの」第200号発行に寄せて

東京都立皮革技術センター所長 寺 嶋 眞理子

皮革技術センター台東支所発行の「かわとはきもの」が、第200号を迎えました。

本誌は、皮革技術センター台東支所の前身である東京都産業労働会館が開設した1972年に創刊され、1998年7月に皮革技術センター台東支所が発足後も継続して発行され、50年の歴史を積み重ねてきました。皮革・靴はきもの関連産業の振興のために本誌の発行に携わってこられた歴代の皮革技術センター台東支所職員の熱意と努力に敬意を表します。なにより、ここまで継続できましたのは、ご執筆、ご愛読いただいた多くの皆様のご支援ご協力の賜物と、心より御礼申し上げます。

最近の靴はきもの関連産業は、革靴輸入率の増加、ファッションのカジュアル化、新型コロナウイルスのまん延による外出自粛の影響等により、非常に厳しい状況となっております。さらに、あらゆる産業で重要な課題である持続可能性への取組も必要になっています。このような状況の中で、海外情報の収集、消費者ニーズの把握、国産革靴の優れた特徴を発信していくこと等が必要であり、靴はきものについての情報を専門に掲載した本誌の役割は大きいものと考えております。

本号は200号の節目となりますが、これからも的確な情報を提供できますように、発行を担当する皮革技術センター台東支所には更にご尽力いただくとともに、皮革技術センターも協力して誌面の充実を図ってまいりたいと思っております。読者の皆様におかれましても、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 「かわとはきもの」第200号の発行に寄せて

一般社団法人日本皮革産業連合会 会長 藤原 仁



「かわとはきもの」200号の発刊、誠におめでとうございます。昭和47年（1972年）の創刊から50年、半世紀という長きにわたって、皮革関連産業発展のために情報を発信し続けられましたことに心より感謝申し上げます。また、関係者、執筆者の皆様に対しまして、深く敬意を表します。

200号のお祝いを寄稿するにあたって、改めてバックナンバーを見直しました。その時々タイムリーな話題、日本の革靴製造の歴史、日本及び世界中のさまざまな皮革や靴の紹介、研究紹介、技術情報、ファッション情報、統計など、今読んでも非常に興味深い内容が満載されています。また、研究紹介や技術情報についても、平易な言葉で解説していただき、専門知識を持たない読者でもわかるような編集になっていると感じました。

私も一読者として、年4回の発行を毎号楽しみにしております。特に、楽しみにしていたのは、稲川實氏が執筆した靴の歴史散歩でした。日本の革靴製造の歴史をさまざまな資料、挿話、写真、挿絵とともに描かれており、140回、35年もの長期にわたって連載されました。これらをまとめたものは単行本「靴づくりの文化史」、「西洋靴事始め」として発行されており、日本の革靴製造業にとって貴重な資料となっています。

昭和47年当時は、日本の皮革関連産業もまだ発展途上にあり、希望に満ちた時代であったかと思えます。しかし、長引く景気の低迷に加えて、新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢など先行きが不透明な状況が続き、日本の皮革関連産業は非常に厳しい時代を迎えています。東京都の産業施策とはいうものの、日本で唯一の靴はきものに関する試験研究機関として、今後とも、日本の皮革関連産業を支援していただくとともに、有益な情報を提供していただければ幸いです。

## 「かわとはきもの」第200号発行に寄せて

皮革産業資料館館長 稲川 實



東京都立皮革技術センター台東支所の機関紙『かわとはきもの』が、創刊200号記念を迎えられたこと、誠におめでとうございます。

『かわとはきもの』には、「靴の歴史散歩」を寄稿させていただいておりましたので、その喜びもひとしおです。

「靴の歴史散歩」の連載は、昭和61年（1986年）に書き始め、令和3年（2021年）3月、140回をもって35年で完結いたしました。長い旅路の連載でした。

靴の歴史散歩も完結したので、これからは、産業資料の収集に励みたいと思っています。

『かわとはきもの』が、今後とも、皮革関連産業に従事されている方々をはじめ、多くの人々に親しまれ、愛読されることを願っています。